山口市文学碑巡り No17（中原中也碑-冬の長門峡）

JR 山口線の**長門峡駅**を降りて、線路と平行に走る国道 9 号線を山口方面に 2～3 分も歩くと商業施設**「道の駅・長門峡」**が、山口市側の**篠目川**と萩市側の**阿武川**が合流する辺りで地元の特産物を販売して多くの人を集めています。「道の駅」脇の篠目川に架かる**洗心橋**を渡って右に折れると長門峡の**遊歩道**に入って行きますが、その入り口に**中原中也の「冬の長門峡」**の詩碑が建っています。昭和 11 年長男文也を亡くした喪失感の中で書いたと言われ、翌年 4 月に発表して、その年の 10 月に中也もこの世を去りました。死亡前に編集を**古林秀雄**に託し、死亡後の昭和 13 年 4 月に発刊された**「在りし日の歌」**の中に納められています。

「冬の長門峡」
長門峡に水は流れてありにけり。寒い寒い日なりき。
われは料亭にありぬ。酒酌みてありぬ。
われのほか別に　客とてもなかりけり。
水は恰も魂あるものの如く　流れ流れてありにけり。
やがて蜜柑の如き夕陽　欄干にこぼれたり。
ああ！――そのような時もありき、寒い寒い日なりき。

中也詩碑「冬の長門峡」

（76 期　厚東一生）